

2013年より3年にわたる

科研共同研究は2014年に
福岡、金沢において4日間のシ

ンポジウムを開催し、着実な成
果をあげることができました。

これを受けて、その成果を広
く研究者や作家と共有する

と同時に、今後の展望を検討
し、議論する場を設けます。

アッパーデイト! 日本美術

科研共同研究「日本における『美術』概念の再構築」を締めくくる

2016年1月31日(日)午後1時30分-6時30分

主催: 科研共同研究「日本における『美術』概念の再構築」
共催: 東京都現代美術館

【プログラム】
●12:45-13:15 第一部: 「美術」にかかる分類の検討

山崎剛 (金沢美術工芸大学) ●13:15-13:45 第一部: 「美術」の脱植民地化・後小路

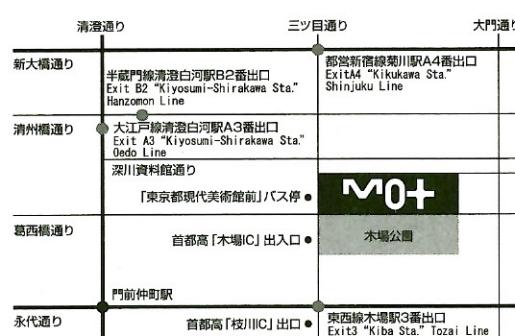
雅弘 (九州大学) ●13:45-14:15 第二部: 同時代美術の動向と美術館・北澤憲昭

(女子美術大学) ●14:45-15:15 第四部: 「美術」概念の再構築・森仁史 (金沢美術工芸大学)

●15:15-16:15 休憩 [討論] ●16:15-16:30 論点整理と提起・森仁史

●16:30-17:00 コメント・稻賀繁美 (国際日本文化研究所) ●17:00-18:00 討論

無料入場



最寄駅: 東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」B2出口より徒歩9分
都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」A3出口より徒歩13分
東京メトロ東西線「木場駅」3番出口より徒歩15分、または都営バスで「東京都現代美術館前」下車
都営地下鉄新宿線「菊川駅」A4出口より徒歩15分、または都営バスで「東京都現代美術館前」下車
駐車場はシンボジウム終了前に閉まりますので、ご利用できません。

*詳細はホームページを参照ください。
<http://www.mot-art-museum.jp/> ● <http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>

我々は「美術」概念の再検討に語彙を手掛かりとし、その領域、構造、方法が直面している課題を検証しつつ議論を深めた。さらに、美術が流通する場として、ポスト・コロニアル状況下のアート・シーン、その中における美術館や美術情報の趨勢、非ヨーロッパ地域での美術の現況などこれまでの到達点と局面を詳らかにし、次なる課題を明示することができたと自負している。

具体的には、日本国内にはアート・フェス的な越後妻有以降の現代美術の動向、つまり、地域振兴に名を借りたイベントとしての現代アートの見かけ上の活況か、さもなければアート・フェアが演出する一過的な市場性の跋扈がもたらされている。これらはいずれも美術のグローバリゼーションにしか行きつかないことが観えて、閉塞感に付きまとわれている。アジアに眼を広げれば、時あたかも本研究と並行して、福岡アジア美術館で「官展による近代美術」展（一〇四年）が開催され、アジア地域の研究者相互の問題意識と成果の共有が現実のものとなってきたし、また、シンガポール・ナショナルギャラリーの開館（一〇五年）準備が進められ、わけてもその一方の翼としてアジア美術ギャラリーがかつてない規模で実現されようとしている。コロニアリズム批判は非ヨーロッパに適切な位置を与えようとしたのだが、同じ動機でヨーロッパにそれらを翻訳する権利や分類する権力を与えかねない構造も露わとなってきた。「大地の魔術師」展（一九八九年）こそは文化多元主義の実践として先駆的であつたが、またそのゆえに批判されることになつた。これらを踏まえれば、我々には非ヨーロッパ地域の造形が基づく構造、語彙の今日的意味を東西の時間的、空間的搖らぎのなかで捉えかえす企てが要請されるのであり、ここから新たな展望を切り開きたい。……（森仁史）